

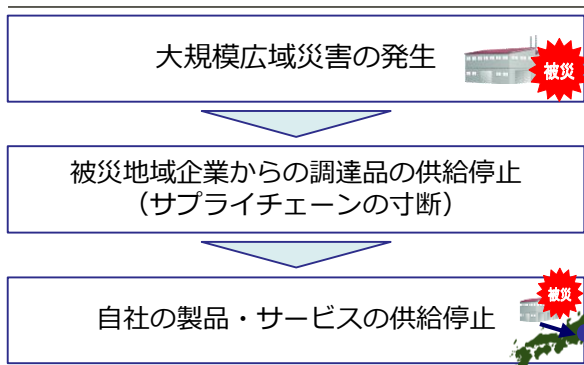
# サプライチェーンリスク管理サービス SCRKeeper

～ サプライチェーンのリスクの見える化と取引先の被災状況の管理をICTで実現 ～

## 経営課題としてのサプライチェーンのリスク管理

昨今、東日本大震災やタイの洪水等に見られる大規模な広域災害の発生は、製造業の企業を中心に多大な影響を及ぼしています。各企業では取引先の被災が原因となるサプライチェーン脆弱性があらためて浮き彫りになったことにより、リスク管理の取り組みを強化しています。

### 東日本大震災等で発生した事象（例）



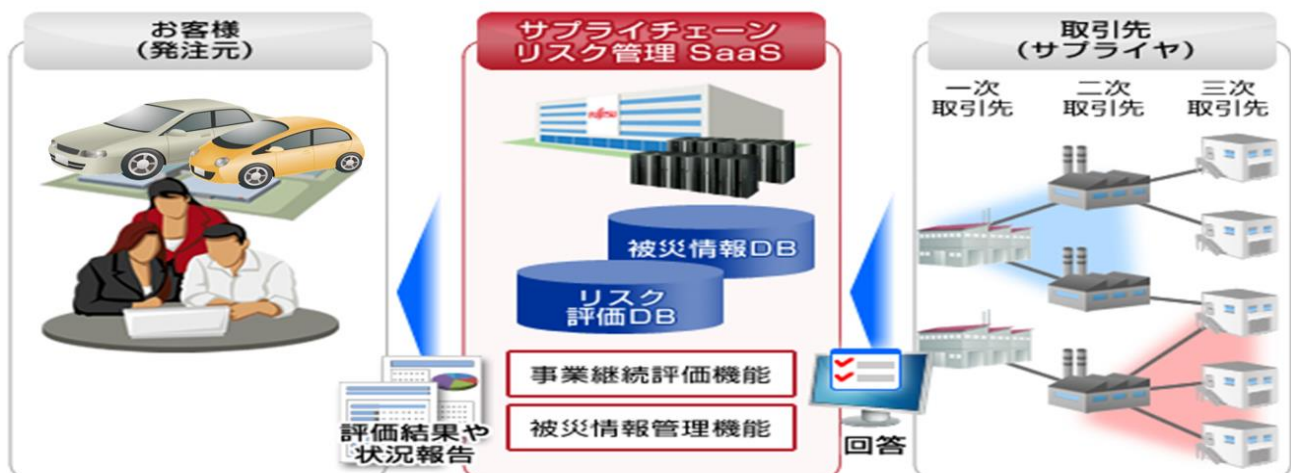
### 浮き彫りになった課題

- サプライチェーンリスク（取引先企業の所在地、対策実施状況等）の把握が不十分
- BCMの取り組みが、自社の対策レベルの範囲（サプライチェーンを意識した検討が不十分）
- 自社のサプライチェーン上の企業が被災した場合の供給停止の影響の把握が不十分

## サプライチェーンリスク管理サービスの概要

本サービスは、災害など不測の実態における取引先の事業継続能力を評価・分析することができます。また、公的機関から提供される最新のハザードマップ（注1）から、取引先の地域的な被害を想定することも可能です。これによりお客様は災害発生時に自社製品に与える影響や復旧時間などを平時より予測することができます。さらに、災害発生時には取引先から被災状況報告を集約する機能があり、迅速な代替調達先の選定・生産管理の調整・取引先への対応を支援します。

（注1）ハザードマップ：洪水や津波、火山噴火などの災害発生時に、住民が安全に避難できるよう被害の予想区域や程度などを示した地図。

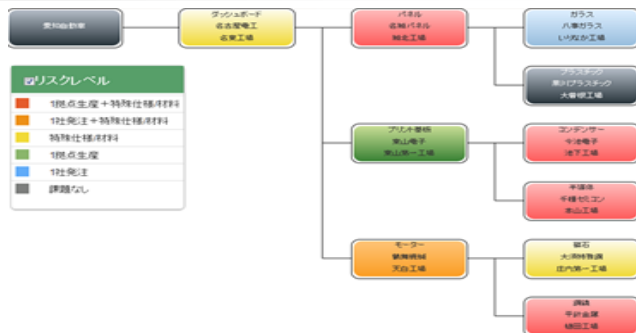


# サプライチェーンリスク管理サービスの特徴

## 1. サプライチェーンの見える化

サプライチェーンをツリー表示することで、品目ごとに商流を確認できます。

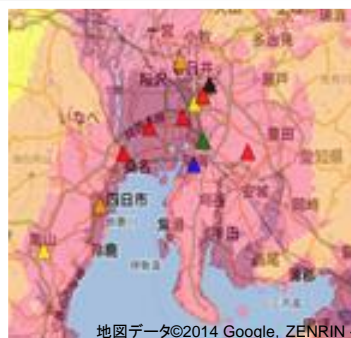
また、ツリー上の拠点がリスクレベルに合わせて色分け表示されるため、1社発注・1拠点生産などのリスクを見える化でき、重要取引先拠点の抽出に役立てられます。



## 2. ハザードマップを活用した取引先の地域リスクを評価

取引先の生産拠点や事務所などの住所と最新のハザードマップを組み合わせることで、災害発生時の被害想定を視覚的に実現します。

さらに、実際に災害が発生した場合には気象庁発表のデータを迅速に反映することで、被災した可能性のある取引先をピックアップし、一覧として閲覧・ダウンロードすることが可能です。



## 3. 自社の製品に与える影響を分析

取引先の事業継続能力およびハザードマップを活用した地域リスクの評価結果から、災害発生時において自社製品に与える影響を定量的に分析することが可能です。例えば、生産停止が発生する対象製品の特定や生産開始の時期などが推測できます。

## 4. 取引先の被災状況を迅速に把握

実際に被害が発生した時には取引先からの被災状況や復旧再開目処の報告などがシステムにすぐに反映されるため、お客様はリアルタイムに状況を確認することが可能です。また、取引先の被災状況一覧を検索・閲覧・ダウンロードすることができ、取引先への迅速な対応や代替取引先の選定などに活用できます。

## 販売価格

サービス名		利用料 (税込)	備考
初期設定サービス		10万円 (一括)	サービスを利用するために必要な環境設定
基本サービス		30万円 (月額)	発注元ID : 10 取引先ID : 100
オプションサービス	発注元ID追加	3万円～ (月額)	発注元が利用するIDを追加する場合に購入する。
	取引先ID追加	5万円～ (月額)	取引先に配布するIDを追加する場合に購入する。

製品・サービスについてのお問い合わせは

**富士通コンタクトライン 0120-933-200** 受付時間 9:00～17:30 (土・日・祝日・当社指定の休業日を除く)

富士通公開サイト <https://www.fujitsu.com/jp/>

詳細はこちら <https://www.fujitsu.com/jp/solutions/business-technology/future-mobility-accelerator/scrkeeper/>